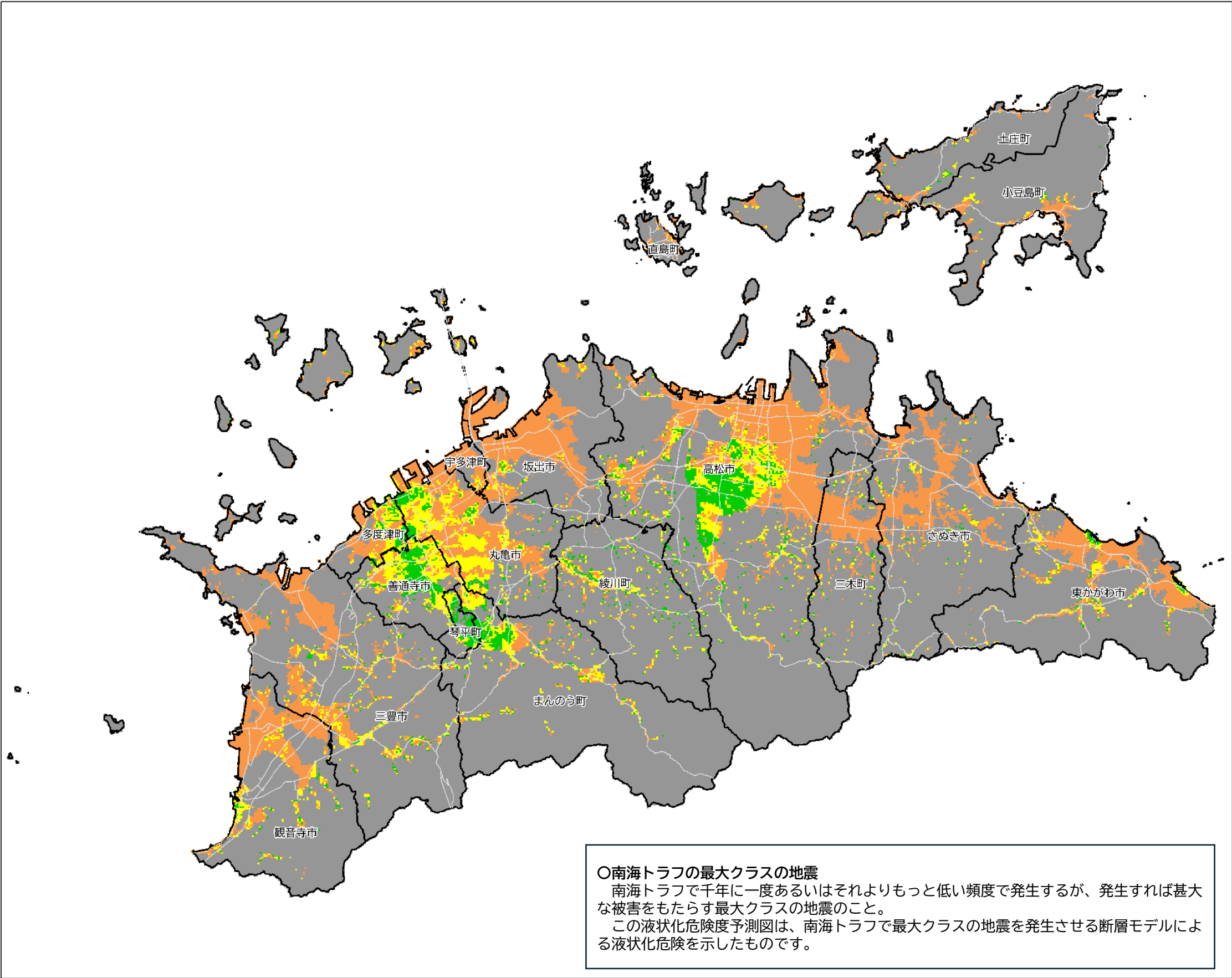


図 面 集【液 状 化】

- 液状化危険度予測図（南海トラフ地震（最大クラス））
- 液状化危険度予測図（南海トラフ地震（発生頻度の高いもの））
- 液状化危険度予測図（中央構造線断層帯）
- 液状化危険度予測図（長尾断層帯）

香川県液状化危険度予測図（南海トラフ地震（最大クラス））



危険度A
(液状化危険度はかなり高い)

危険度B
(液状化危険度は高い)

危険度C
(液状化危険度は低い)

危険度D
(液状化危険度はかなり低い)

液状化の危険度がどの程度であることを示しています。

■

この液状化危険度は、液状化現象の発生を予測する一定の目安であり、危険度が高い地域であっても、全てが必ず液状化するというものではありません。

■

危険度が高い地域では、重要な構造物等を設計する際に、液状化に関する詳細な調査及び対策をする必要があるとされています。

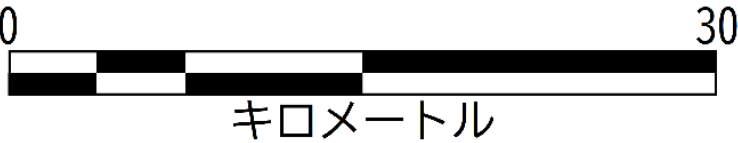
■

液状化により道路に段差が生じたり、砂や水などが噴出し、避難の妨げになることがあります。

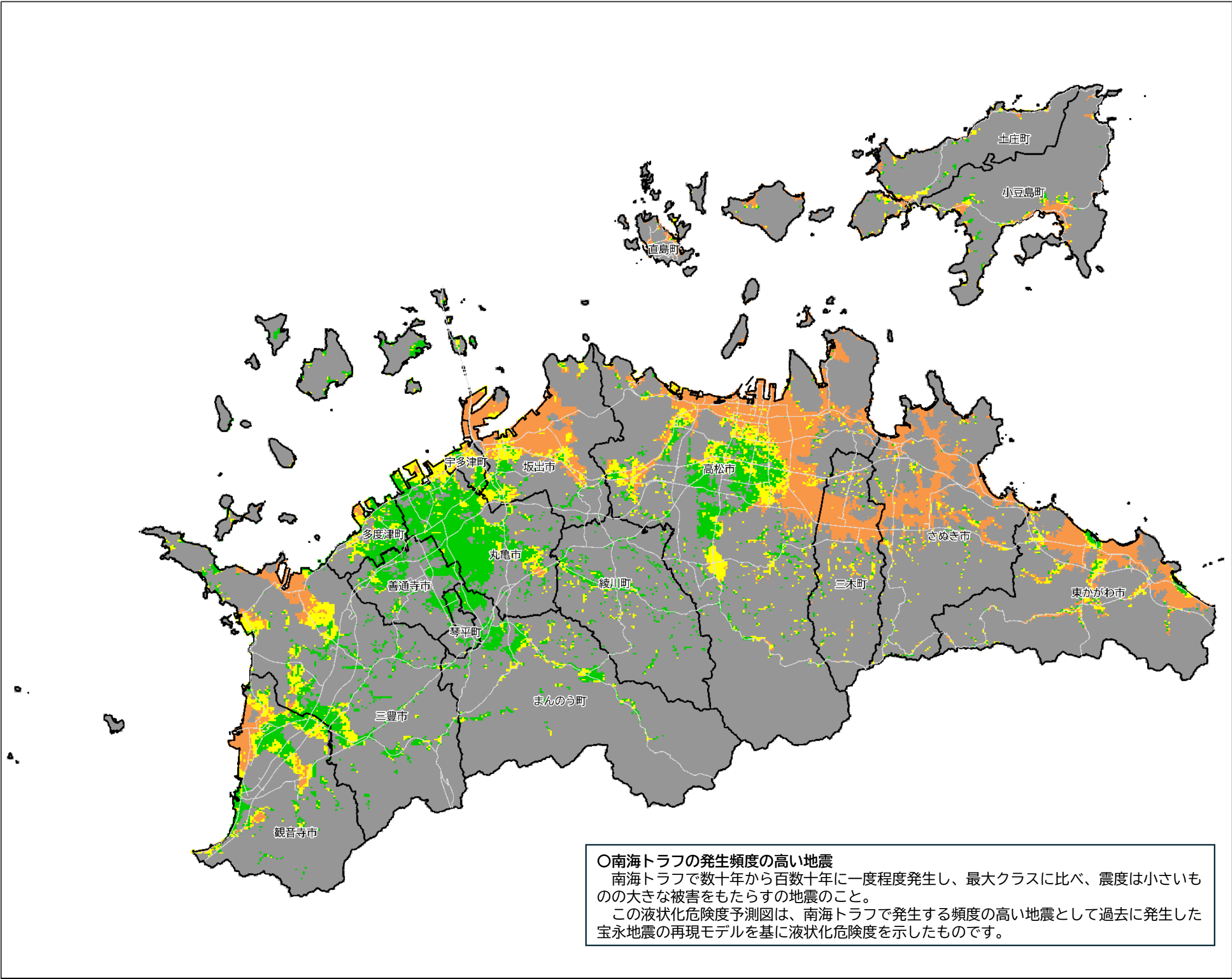
■

液状化による被害も考慮し、揺れがおさまったら、速やかに避難を開始しましょう。

○南海トラフの最大クラスの地震
南海トラフで千年に一度あるいはそれよりもっと低い頻度で発生するが、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの地震のこと。
この液状化危険度予測図は、南海トラフで最大クラスの地震を発生させる断層モデルによる液状化危険を示したものです。



香川県液状化危険度予測図（南海トラフ地震（発生頻度の高いもの））



危険度A
(液状化危険度はかなり高い)

危険度B
(液状化危険度は高い)

危険度C
(液状化危険度は低い)

危険度D
(液状化危険度はかなり低い)

液状化の危険度がどの程度であることを示しています。

■

この液状化危険度は、液状化現象の発生を予測する一定の目安であり、危険度が高い地域であっても、全てが必ず液状化するというものではありません。

■

危険度が高い地域では、重要な構造物等を設計する際に、液状化に関する詳細な調査及び対策をする必要があるとされています。

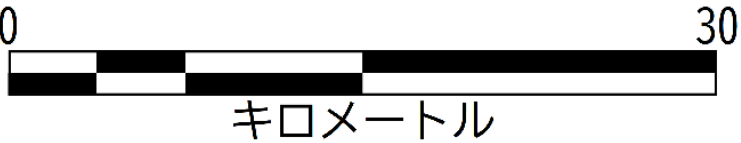
■

液状化により道路に段差が生じたり、砂や水などが噴出し、避難の妨げになることがあります。

■

液状化による被害も考慮し、揺れがおさまったら、速やかに避難を開始しましょう。

○南海トラフの発生頻度の高い地震
南海トラフで数十年から百数十年に一度程度発生し、最大クラスに比べ、震度は小さいものの大きな被害をもたらすの地震のこと。
この液状化危険度予測図は、南海トラフで発生する頻度の高い地震として過去に発生した宝永地震の再現モデルを基に液状化危険度を示したものです。



香川県液状化危険度予測図（中央構造線断層帯）



- | | |
|--|------------------------|
| | 危険度A
（液状化危険度はかなり高い） |
| | 危険度B
（液状化危険度は高い） |
| | 危険度C
（液状化危険度は低い） |
| | 危険度D
（液状化危険度はかなり低い） |

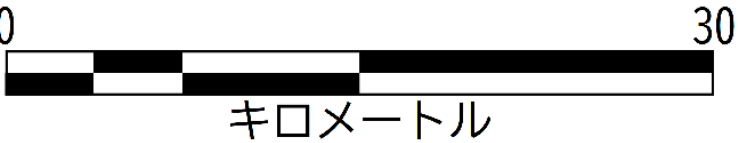
液状化の危険度がどの程度であることを示しています。

- この液状化危険度は、液状化現象の発生を予測する一定の目安であり、危険度が高い地域であっても、全てが必ず液状化するというものではありません。
- 危険度が高い地域では、重要な構造物等を設計する際に、液状化に関する詳細な調査及び対策をする必要があるとされています。
- 液状化により道路に段差が生じたり、砂や水などが噴出し、避難の妨げになることがあります。
- 液状化による被害も考慮し、揺れがおさまったら、速やかに避難を開始しましょう。

○中央構造線断層帯

中央構造線断層帯は、奈良県から和歌山県、淡路島の南方海域を経て、四国北部をほぼ東西に横断し、別府湾を経て大分県に至る大断層です。このうち、本県の被害想定の対象とする断層は、讃岐山脈南縁東部区間から讃岐山脈南縁西部区間に位置する断層とし、その平均活動間隔（発生頻度）は約9百年～1千5百年に一度となっています。

この震度分布図は、中央構造線（讃岐山脈南縁東部区間と讃岐山脈南縁西部区間の連動）の断層モデルとして国が示した4つのモデルのうち、本県に影響の大きいモデルによる震度を示したものです。



香川県液状化危険度予測図（長尾断層帯）



液状化の危険度がどの程度であることを示しています。

- この液状化危険度は、液状化現象の発生を予測する一定の目安であり、危険度が高い地域であっても、全てが必ず液状化するというものではありません。
- 危険度が高い地域では、重要な構造物等を設計する際に、液状化に関する詳細な調査及び対策をする必要があるとされています。
- 液状化により道路に段差が生じたり、砂や水などが噴出し、避難の妨げになることがあります。
- 液状化による被害も考慮し、揺れがおさまったら、速やかに避難を開始しましょう。

○長尾断層帯
長尾断層帯は、讃岐山脈の北縁に位置し、さぬき市から高松市南部を経て綾歌郡綾川町に至る断層で、平均活動間隔（発生頻度）は概ね3万年程度となっています。
この震度分布図は、長尾断層の断層モデルとして国が示した4つのモデルのうち、本県に影響の大きいモデルによる震度を示したものです。

